

# 発語障害向け「ペーシングボード」

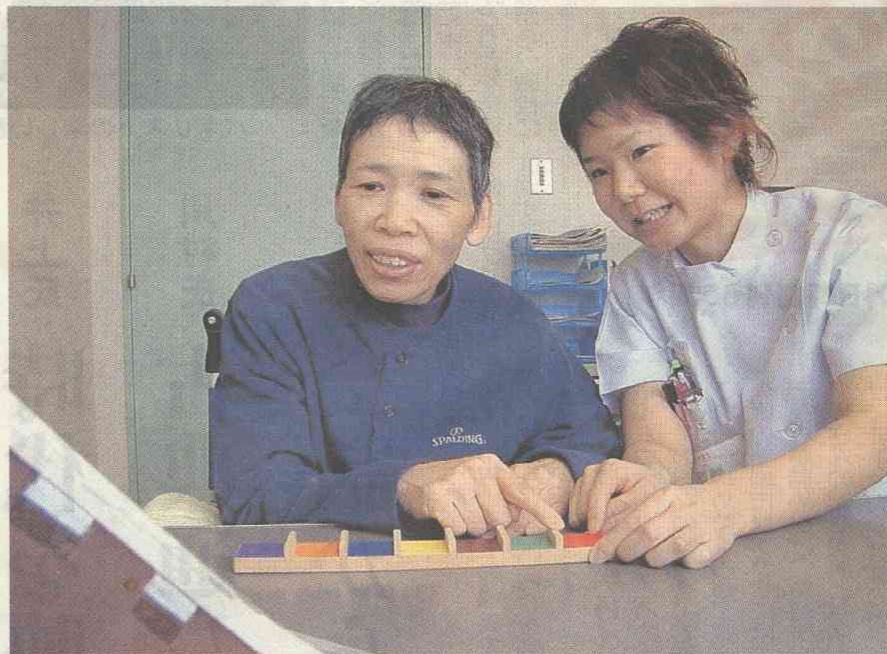
# 機能回復へ高い効果

脳卒中の後遺症、神経疾患などが原因で話すことに支障をきたした人向けに、新たなリハビリ器具が県内で広がっている。長方形の板を等間隔に区切った「ペーシングボード」と呼ばれる道具で、区切られた箇所を指でなぞりながら発声訓練する仕組み。言葉が明瞭になったという訓練結果が関係学会で報告され、コミュニケーション能力を高める道具として期待を集めている。

ペーシングボードは、総合病院などでボードを難病のパキンソン病に使った機能回復訓練を取組んで喉頭部、舌に麻痺が入れている。新潟市秋葉区にある人の機能回復を目的とした「ペーシングボード」は、三十年前、米国で考案された。市販のボードは縦五センチ、横二十九センチの板で七等分され、それぞれ色付けされている。家庭で作ることもできる。使用法は、まずの部分から順番に指で触りながら、一言ずつ話す。症状の程度に応じて音節ごとに、または一語ごとに区切ることで、はっきりと聞き取れる言葉を話せるようになる。

県内では、新大医歯学

## 県内病院でも活用進む



ペーシングボードを使ってリハビリをする加藤芳江さん(左)と言語聴覚士の阿部尚子さん(新潟市秋葉区の下越病院)

われていたが、失語症のリハビリに主眼が置かれていた国内では当時、利用が一部に限られていた。

西尾准教授は「色付けされた箇所を触る視覚的な刺激と、板を触る動作が、言語器官に良い影響を与える」と説明する。

阿部さんらの調査では、ボードで一定の訓練を積むと、ボードなしでも言葉の明瞭度が低下しなかったとの結果が出た。その内容は昨年、日本言語聴覚学会で発表された。

県内で脳卒中を発症する人は年間約九千人、パキンソン病患者は約二千人とみられる。全国パキンソン病友の会の斎藤博会長(新潟市西区)は「社会とコミュニケーションを取る上で大切な道具。利用が広がってほしい」と期待を寄せられている。

市販ボードの取り扱いにはインターネット出版、ファクス03(5319)2440。ホームページアドレスはhttp://www.w.intern.co.jp/

## 短時間で言葉明瞭に

見島に住む姉と電話で話している。同病では、普段小刻みにしか歩けない人が、階段の上り下りや床研究会」を設立、ボードが広く知られるようになった。欧米では一般的なリハビリ道具として使

われる。長年、花粉症の患者を診てきたアグティ大阪耳鼻咽喉科医院(大阪市)の藤枝重治教授は「規

は、はっきりした言葉で

常の体調管理が大きく影響する。

健康管理を

ここ数年の大量飛散の見通し心配なら呼び掛け

を



マスクな

長年、花粉症の患者を診てきたアグティ大阪耳鼻咽喉科医院(大阪市)

花柳症は免疫活動の異

科の藤枝重治教授は「規

環境省は



豚肉の

【主な材料】豚ロース肉、アサヒ

【作り方】身と肉の間

り、軽いた

ゆ大きじ

1/2に漬

んにサラ

熱し、漬

肉に焼き

秒ほど強

弱めてさら

その後裏

く③漬け

1を混ぜ

ライパン